

ITが人と社会にできること

私たち日本ユニシスグループは、経営理念に「高品質・高技術の追求による顧客第一主義」「個人の尊重とチームワークの重視」「社会・顧客・株主・従業員にとり魅力ある会社」を掲げ、長年にわたりステークホルダーのみなさまとの関係性を重視した企業活動を行ってまいりました。

とりわけ、私たちはIT企業という立場から、日常の事業活動を通じてお客さまの課題を解決することこそが使命であるとの認識のもと、「ITが人と社会にできること」をスローガンとして設定し、グループ全体でCSR(企業の社会的責任)に取り組んでおります。

現在、ITは各種産業や市民生活の向上のためには重要な戦略要件となっておりますが、ITが社会

に確実に浸透し、理解を得ているかと言えば、まだ不十分な点があると認識しております。私は、「ITが人と社会にできること」を確実に実践していくためには、まず、「ITを人と社会に理解してもらう」努力を続けていくことが肝要だと思っております。専門家ぶらず、誰にでも分かりやすい言葉で、ITの可能性と将来性を伝えていくこと。これこそが「ITが人と社会にできること」の第一歩と考えております。

その上で、事業展開については、「先進と信頼」という観点からの顧客価値創造をキーワードに推進してまいります。お客さまの課題を解決するため、最適な先進技術を提供しお客さまの本業との調和を図っていくと同時に、安定したサービスを持続的に提供することで信頼を得ていきたいと考えます。そのためには、お客さまに価値を提供する従業員一人ひとりの「思い」が重要であることは論を待ちません。私は、従業員のモチベーション向上のために経営者としてコミュニケーションを最大限に図ってまいります。

また、社会的な責任を果たすという観点からコンプライアンスは当然として、事件、事故が発生した場合の事業継続計画(BCP: Business

Continuity Plan)について、単に言葉やマニュアルを作っただけで終わらせないために、経営的にどのようなリスクが発生するのかを想定し、具体的に行動レベルで対策を強化してまいります。

企業経営を取り巻く環境の変化にはめまぐるしいものがありますが、私が経営を遂行していく上でもっとも重要だと感じているのは、「透明性」ということです。できる限り社会に対して情報の開示をきちんと行える企業こそが、本当のパブリックカンパニーなのではないでしょうか。コーポレート・ガバナンスもこの一環と考えます。私は、日本ユニシスグループを社会に胸の張れる真のパブリックカンパニーにするべく、「透明性」の基本方針のもと、ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを高めてまいります。

ここに、日本ユニシスグループ初めての「CSR報告書」を作成いたしました。多くの方に本報告書をご覧いただき、当社グループの取り組み姿勢と活動内容をご理解いただければ幸いです。

そして、日本ユニシスグループ各社をなお一層良い会社にするために、みなさまからの忌憚のないご意見をお待ちいたしております。

日本ユニシス株式会社
代表取締役社長

梶井勝人

